

～旧約聖書を読んで感じること～ (74) ソロモンの陰

若い時、ソロモンは民の裁きのために祈りました。「貧しい人、乏しい人を救い、虐げる者を砕く知恵」(詩72)を求めています。また、神殿建設には「主御自身が建てて下さるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなししい」(詩127)と謙虚に導きを求めています。ソロモンの真剣な思いが伝わってきます。けれども、老境に入ると、ソロモンは妻たちの言いなりになり、迷い、偶像である他の神々の祭壇を作りました。主の怒りが彼に二度も現れたのですが、彼は従いませんでした。

シドン人の女神アシュトレト	アンモン人の神ミルコム・モレク	モアブ人の神ケモシュ	バアル	アシェラ
豊穡・性・戦争の神	豊穡・新生児 生贄の神	戦いの神	雷神・豊穡・農業神	神の妻なる神
				

経済を優先させ、得た富により、諸事業を成し遂げた華々しい功績がありますが、その陰では、重税、賦役にあえぐ民衆もいたのです。ソロモンを諫め、叱責し、提言する家臣はなく、エルサレム神殿も「御用祭司」だけがいたのでしょうか

ところが、最初の祭壇が築かれたシロに、ソロモンの偶像礼拝を怒っている一人の預言者アヒヤがいました。彼はある人物に、ソロモンと対決するよう迫りました。その人物とは母子家庭に育った、エフライム族のヤロブアムでした。ヤロブアムはソロモンの労役全体の監督をしていた有能な人物でした。彼は偶像礼拝については関心がなく、ソロモンの過重な労役には強い不満があったのです。



アヒヤの預言 Gerard Hoet

そのころ、ヤロブアムがエルサレムを出ると、シロの預言者アヒヤが道で彼に出会った。預言者は真新しい外套を着ていた。野には二人のほかだれもいなかった。アヒヤは着ていた真新しい外套を手にとり、十二切れに引き裂き、ヤロブアムに言った。「十切れを取るがよい。イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしはソロモンの手から王国を裂いて取り上げ、十の部族をあなたに与える。ただ一部族だけは、わが僕ダビデのゆえに、またわたしが全部族の中から選んだ都エルサレムのゆえにソロモンのものとする。わたしがこうするのは、彼がわたしを捨て、シドン人の女神アシュトレト、モアブの神ケモシュ、アンモン人の神ミルコムを伏し拝み、わたしの道を歩まず、わたしの目にかなう正しいことを行わず、父ダビデのように、掟と法を守らなかったからである。(列上11:29)

アヒヤから「王国を分断し、イスラエルをあなたのものである」と激しい言葉と行いで予言されたヤロブアムは、野心もあったでしょう、この言葉を信じました。ソロモンが神によって裁かれたと思いました。ヤロブアムはソロモンの栄華の陰の部分の多くを部下、労働者を束ねて、支えていたので実情を把握していたのです。これを知ったソロモンはヤロブアムを殺そうとしましたが、ヤロブアムは直ちにエジプト王のシシャクのもとに逃亡し、ソロモンが死ぬまでエジプトに留まりました。ソロモンは若くして王になりましたが、40年の在位を経て、長寿には至らず、眠りについたらとされています。この預言者アヒヤは「シロの人アヒヤの預言」(歴下9:29)を書き記したようですが、聖書には残っていません。